

# 保育心くあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 増本 律秀 編集者 有松 徹



大井保育園



原中央保育園



まごころ保育園



南片江こども園

## vol.132 令和6年度 1号

理事長挨拶 .....	2	6月就職フェア報告 .....	6
保育士会会長挨拶 .....	2	コラム .....	7
保育士という仕事の魅力向上に向けて .....	3	私の園の取り組み .....	8
養成校との対談 .....	4~5	編集後記 .....	8



理事長挨拶

福岡市保育協会 理事長 増本 律秀

2020年1月15日に初めて国内のコロナ感染者が確認された後、想像以上に長引いたコロナ禍も、昨年5月に感染症法上の位置づけが2類から5類に変更されたことに伴い、保育現場でもようやく一定の落ち着きを取り戻すことができました。しかし、このコロナ禍により、少子化は一層加速し未だかつてない少子高齢化時代を迎えています。令和5年の出生数は70万人台前半となり、このままでは、国のあらゆる分野での活力の低下が避けられないと懸念されています。

このような中、令和5年4月に子ども家庭庁が設立され、新たに設置された子ども家庭審議会において、今後5年間の子ども施策に関する基本的な方針や重要事項等を一元的に定める「子ども大綱」が令和5年12月22日に閣議決定されました。既存の3大綱（少子化社会対策大綱、子ども・若者育成支援推進大綱、子どもの貧困対策に関する大綱）が取りまとめられ、ここに定められた事項はその達成機関の定めや実施に必要な財政上の措置等を講ずるよう努めなければならないとなっており、さらに「子ども未来戦略」に基づいて令和6年度からの3年間で少子化に歯止めをかけるための「子ども・子育て支援加速プラン」を予算化し推進するとしています。この「子ども未来戦略」には様々な施策が盛り込まれて

いますが、私たちの携わる乳幼児教育・保育関係においては、まず懸案の保育人材確保策、そのための職員処遇の改善、また新たに創設される「子ども誰でも通園制度」の実施、さらには、特に厳しい人口減少地域における良質な保育の確保などが喫緊の課題となります。

こうした中、福岡市においては、子育て応援メニューの「多子世帯への取り組み」の一つとして、「第2子以降の保育料無償化」が昨年より実施され、さらに今年度より特別保育支援事業（さぼりと保育）において助成額の増加、新たな国のメニューの導入等色々な取り組みを講じて頂いております。人材確保や更なる職員処遇の改善等、行政と密に連携を取りながら今年度も必要対策に取り組んでいきたいと思っております。

また、昨年度末の総会において、定款の大幅な変更にご承認いただきました。ありがとうございます。時代が大きく変化する中、今後も福岡市保育協会の組織運営も、柔軟な対応を取らねばならない状況になる場合も出てくると思いますが、子どもの最善の利益を守ることを基本理念にすることは、忘れないようにしたいと思います。

今年度も福岡市保育協会の円滑、かつ充実した運営のために、皆様のご協力、ご理解をよろしくお願いいたします。

保育士会会長挨拶

福岡市私立保育士会 会長 平野 理江

引き続き、福岡市私立保育士会会長を務めさせていただきます。

昨年度は、「子どもまんなか社会」に向けて一歩前進かなと実感した年でした。併せて制度が大きく転換する時期でもあり、保育現場で働く職員や、少子化対策に貢献し子育てを頑張ってくださいという保護者の方への物心両面からの負担軽減を考えていただいていることは非常にありがたいことです。

しかし、その取り組みは本当に子どもたちをまんなかに据えた、子どものための制度になるのかなあと疑問を抱くときもあります。私たちは、子どもたちに寄り添う身近な専門職として、より良い子どもまんなか社会となるよう、代弁者となり、育ちを支援していきたいと思っております。

そして、全国保育士会とも強く深く連携し、取り組みを進めてまいります。全国保育士会は、子どもたちの最善の利益を追求するために、全国の保育士等が集い、その力を結集する組織です。会員ページ以外はどこでもご覧いただけますので、全国保育士会のホームページをぜひのぞいてみてくださいね。もちろん、福岡市私立保育士会のホームページへのお越しもお待ちしています。このホームページにも情報満載です。

11月には高知で『全国保育士会研究

大会』が開催され、全国保育協議会の大会と来年から一本化されるため、単独での開催は今年が最後となります。コロナが5類感染症に移行し、全国での大会・研修会が参集で定着してきました。今年も他都市研修を予算の限り募集催行いたします。全国保育士会の会員と他都市で交流することで知識だけではなく、視野の広がりや心の豊かさも生まれると思われれます。当然ながら、福岡市保育士会としての研修会の取り組みにも力を入れています。前会長のときにご縁をいただいた「すこやか母子未来ネットワーク」さまとのコラボ研修も充実を増しています。自らの人間性と専門性の向上に努めるための研修会です。会員の皆様お一人お一人が自主的、意欲的に参加参画いただき、全国保育士会の倫理綱領の行動指針の実行につながることを願います。

**私たちは、子どもの育ちを支えます。**

**私たちは、保護者の子育てを支えます。**

**私たちは、子どもと子育てにやさしい社会をつくりまします。**

今年度も、福岡市保育協会と各園長先生の力強いご支援をいただきながら、保育の質の向上、全ての子どもたちの幸せのために、取り組んでまいります。

引き続きご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

引き続きご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

## 保育士という仕事の魅力向上に向けて

福岡市子ども未来局 子育て支援部長 篠原 太

福岡市保育協会及び保育園の皆さまにおかれましては、日ごろから子どもたちの健やかな成長のためにご尽力いただきまして、心から感謝申し上げます。

この度、「保育ふくおか」に寄稿する機会をいただきましたので、子どもたちを支える保育士を取り巻く環境の変化や、保育士に対する福岡市の施策などについてお伝えさせていただきます。

### ○保育士需要の増大

共働きの世帯の増加などに伴い、保育を必要とする子どもが増えたことから、福岡市においても待機児童の解消のために12年間で約1万8千人分の保育園の整備を行いました。

また、延長保育や休日保育などの利用が広がるとともに、園で預かる子どもたちには、医療的ケアが必要な子や外国籍の子、家庭環境に特別な配慮が必要な子など、求められる保育の内容も多様化が進んでいます。

さらに、国の「こども未来戦略」において保育士の配置基準の改善が掲げられ、令和6年度から3〜5歳児にかかる基準の改正が行われました。令和7年度以降には、1歳児の配置基準の見直しも検討されており、保育士の活躍の場はますます増えていく見込みです。

このように、保育士に対する需要は大きく増加しており、今後も当分の間は少子化の進行にもかかわらずこの傾向が続くと思われる。

### ○保育士不足の状況

待機児問題の改善とともに、多様なニーズにこたえるサービスの導入によって、子育て環境の整備は進みましたが、そこで新たに生まれたのが、保育士の人材不足という問題でした。

急激に増えた保育士の需要によって、令和5年度の福岡地区の保育士有効求人倍率は平均で約3.0倍まで上がっています。

また、報道等を通じて保育士の労働環境や不適切保育などがクローズアップされたことから、保育士を志す若者の減少も懸念されています。

### ○保育士の処遇改善

福岡市では、多くの方々に保育士として働いていただくために、様々な取り組みを行っています。

まず、保育士の処遇改善です。福岡市では、従来から保育協会補助金として勤続手当や初任給調整措置費を助成するなどしてきたところですが、平成29年度からは、家賃助成を、令和元年度からは奨学金返済支援をスタートするなど、保育士のさらなる処遇改善に取り組んでいます。

また、保育士資格を取得している人の中には、結婚や出産、子育て等により保育現場を離れた潜在保育士と呼ばれる人たちが多数おり、厚生労働省の調査では保育士登録者数のうち約6割が潜在保育士であるというデータがあります。

福岡市では、潜在保育士の方たちが保育士として就職することを手助けするために、お子さんの保育に係る費用や就職するにあたり必要となる転居、被服等に関する費用の貸付事業を行っています。いずれも市内の保育園等に2年間継続した場合は返還免除となっております。潜在保育士等の経済的な負担を軽減することにより、より多くの方に職場復帰をしてもらうことを狙っています。

こうした取り組みによって、保育士の給与面に関する支援は、県内の自治体の中でも手厚いものとなっております。

### ○保育士の業務負担軽減と働き方改革の推進

次に、保育士の業務負担の軽減・働き方改革の推進です。

令和2年度から、園外保育時の見守りなどを行う保育支援者を配置する「保育体制強化事業」を、令和6年度からは、ブランクの長い潜在保育士の職場復帰と保育士の負担軽減を目指して、「保育補助者の雇用費助成事業」を開始しました。

また、令和5年度からは労務管理の専門家である社会保険労務士による研修等を通じて各園における「働き方改革」の取り組みを支援する「保育現場の魅力向上支援事業」を実施しています。

さらに、「保育園で働くあなたの相談室」を開設し、社会保険労務士による労務等の相談（414-4864）や産業カウンセラーによるメンタルヘルスの相談（434-4434）を受け付けています。もし、これを読んでいる方の中に困っていることや人間関係での悩みなどがありましたら、お気軽にご相談ください。

### ○就労支援など

保育士として働きたい方を増やし、就労に結びつけることも重要です。

新卒の保育士資格取得者の方への働きかけとして、福岡市保育協会と連携し、市内や近郊の指定保育士養成施設等を訪問のうえ、学生に対して、保育士として働くことの魅力を伝えるとともに、市内保育園のPRと就職支援等を実施しています。

また、市内保育園等の情報を容易に検索・比較ができるサイト「保育士就職支援NAVI」の運用や、保育士として勤務したい人と保育士を募集している保育園をつなぐための無料の職業紹介所「福岡市保育士・保育所支援センター」を運営しているところです。オンラインによる就職相談ができるほか、気になる保育園への見学や面接の日程調整を行っていますので、ぜひ、多くの保育園・保育士の皆さんにご登録いただきたいと思います。

### ○さらなる取り組みに向けて

以上、ご説明してきた福岡市の取り組みは、市内保育所への就職促進や離職防止に寄与するものと考えています。

次代を担う子どもたちの学びや成長の場として環境を整備し、保護者が安全・安心にこどもを預けられる保育体制を築くためには、保育士の人材確保は必要不可欠です。

保育現場の第一線である各保育園の円滑な運営が図られるよう、引き続き保育協会の皆さまと連携しながら福岡市として必要な施策にしっかりと取り組んでまいりますので、引き続き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

# 養成校との対談を行いました

5月20日(月)、福岡市市民福祉プラザにて、養成校の就職支援担当者として福岡市保育協会とで、これからの保育者育成と確保について①学生数の推移②今の学生の傾向③養成校と保育協会の協働について、の3テーマにてインタビュー形式で対談を行いました。

参加校・福岡こども専門学校・中村学園大学・中村学園大学短期大学部・九州産業大学  
インタビュアー・機関紙編集委員  
有松委員長・機関紙編集委員6名

## ①現在の養成校の状況

少子化、人口減の中で様々な工夫を凝らし学生集めを実施されています。しかし、今後の学校運営への危機感ほどの学校ももたれていました。また、保育者を目指す学生の募



九州産業大学 沖本氏

集の段階で、一般企業との賃金の格差にも課題を抱えられていることが分かりました。

## ○保育士志願者数について

・小学校教員免許取得志望者はほぼ横ばいであることにに対し、保育士志願者数は減少傾向にある。  
・開校以来、初めての定員割れとなった。

・今年度は福岡市の18歳人口自体が減っている年と言われていた。保育士志願者のみではなく、全体的な人数の減少が影響しているとも考えられる。

・今後の入学志願者数について、学生募集を停止する学校が出てくるといったも定員割れが解消されるとは考えておらず、業界全体として学生集めへの危機感を感じている。

## ○学生募集の為の工夫

・オープンキャンパスについてホームページへの掲載・TV広告(予算次第)・学生の出身校へ訪問し卒業生の状況報告とともに告知をしている。  
・大学のイメージを持ってもらえるように、学校全体のものに加え、

学科独自のオープンキャンパスを行っている。

・高校からの意向も聞きながら大学教員が高校に赴いて講義を行っている。

・大学生と高校生が直接話をできるような機会を設けている。

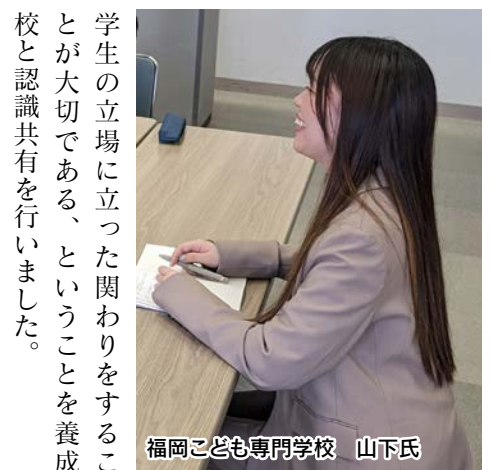
・夏休み明けには進路を固めていることもあり、3年生のオープンキャンパス参加率は低いため、学校見学会の対象を高校1年生からとするなど見学会の低学年化を行っている。



中村学園大学 岡本氏

## ②今の学生の傾向

多様性の中で調和とともに、個を重んじる傾向にあるとのこと。反面、自信を持たず、他者評価が気になったり、物事を白か黒かでのみ判断したりすることから、人間関係の構築に難しさを感じている傾向にあるようです。また、実習については、多くの園での経験をする中で就職先を決めて欲しく、そのために受けいれる園側の対応の違いに困惑されることもあるとのこと。



福岡こども専門学校 山下氏

## ○職業観、就職への向き合い方

・初めに勤めた園でずつと働くという思いで就職しているが、学生時代の選び方と社会人になっての選び方が違ってくることからの転職は当たり前前になっている部分もある。

・どれくらい長く勤めている先生がいるか、キャリアイメージの有無も選択肢としてある。

・卒業生の有無も園選びの重要な判断材料としている。

・自分の理想が叶う場所で働きたい。  
・私生活も大切にできる働き方をしたい。

・「間違えること」や「自分がどう見られているか」が不安

○学生が実習を就活の場として捉えることについて

・就職先については主に学生に任せられている。



有松委員長

- ・ 実習から就職につながることは多い。
- ・ すべての実習を行った上での選択をするよう指導している。
- ・ 延長保育でのアルバイト、自主実習を行うなど、できるだけ多くの園を見るように指導している。

### ○実習時の園からの採用アプローチについて

- ・ 就職の話があることは嬉しいことではあるが、実習の緊張、不安がある中での就職の話があることでの混乱はある。プレッシャーになっているという学生が多い。
- ・ 就職先について、保育園・こども園・幼稚園か悩んでいる中で、実習が終わった後によく考えたいという学生の思いがある。
- ・ 自主実習後、その日のうちに試験を受けさせられた事例があった。あくまでも自分が園で働くイメージをつける場として受け入れて欲しい。
- ・ 双方の立場をわきまえて声を掛け合うことでより良い保育者育成ができるのではないかと。

### ③養成校と協会との協働について

学生が資格取得や就職活動において、できるだけ多くの保育園を体験しやすい環境を整えていく、ということが求められています。そのために、園見学、自主実習などの申込の方法や内容を学生の立場に立って受け入れ側も考えて行く必要があるようです。

### ○養成校と保育協会との協働内容の提案

- ・ 沢山の園の見学、体験を気軽に行える環境づくり。例えば、行事等への「ボランティア」や「お手伝い」など。
- ・ オープンキャンパス時に沢山の子どもたちと触れ合うことが学生募集にとって効果的。園の子どもたちが参加できるようにしていきたい。
- ・ 園見学の依頼を電話で連絡することがハードルになっていて、学生も多い。園ツアーとして見学できる機会があれば学校が連絡の窓口となれる。
- ・ 求人票の見方が分からない多くの学生のための様式の統一化。
- ・ 実習記録の提出方法の統一化または対応の柔軟化（紙かデータか）
- ・ 養成校と保育施設の共通のテーマは「保育の魅力伝えること」であると考えますが、その方法は時代と共に変化してきていることを知りま



中村学園大学 玉井氏

した。時代の変化に対して議論点が変わっていない部分もあり、双方がその変化に対応できているかどうかの疑問を改めて感じました。今後我々が注力すべきは、保育協会と養成校との繋がりで、その繋がりを意味あるものにするためには、例えば学生を受け入れる体制の標準化などの保育協会会員園同士の繋がりで、また、資格取得の為の同じ基準での評価・評定ができるような仕組みづくりを行っていきけるような養成校同士の繋がりをより深めていくことが必要だと考えます。自園、自校の保育者や学生を確保することは重要なことです。しかし、それだけでは近い将来、確保していく人材そのものがいなくなってしまうと考えます。大きな転換期の中で、うまく対応していくために「ひとりではみんなのために・みんなはひとりのために」保育協会と養成校がワンチームとなっていく必要性を実感いたしました。

(機関紙編集委員 吉岡 大作)



## 令和6年度 第1回就職フェア 報告

今年度1回目の就職フェアが、6月15日(土)にアクロス福岡にて開催されました。最大75ブースに対して、94園(法人)からのお申込みをいただきました。申込み園の皆さまには、園長会前の抽選や参加費の徴収にご協力いただき、誠にありがとうございました。

当日フェアの参加者へのアンケート結果を、以下にまとめておきます。次回以降のフェア参加時や今後の求人活動等のご参考になるかと思っておりますので、是非ご覧ください。

まずは昨年度からの参加者の推移です。令和6年度1回目の就職フェアには168名の方が参加してくださいました。昨年度2回目の就職フェアと比較すると参加者は増加していますが、昨年同時期に行った1回目の就職フェアと比較すると、約2割程度参加者が少なくなりました。

続いて、参加者が在籍する学校の内訳です。多くは福岡市内の養成校からの学生ですが、長崎県や鹿児島県などの九州内他県の学生や、大阪や東京などの学生も参加していました。また、数は少ないですが、試験で資格を取得された方や、潜在保育士の参加もあり、経験年数や働き方など、幅広い立場を想定して説明を行うことで、参加者の満足度も高くなっていくのかもしれません。

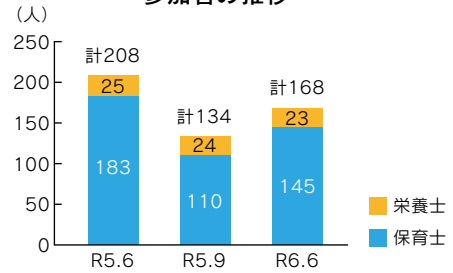
次に、参加者が回ったブース数です。ほとんどの参加者(96名)が7園以上の園から説明を聞いていました。多くの方は1時間半以上滞在しており、ここ1~2年は特に、意欲的な方が増えているように感じます。

次は参加者が就職における情報収集に活用しているSNSの内訳です。(複数回答可)多くの参加者(約7割)がInstagramで情報収集していることがわかります。ちなみに今回の就職フェアの広報についても、青年部内の広報チームがInstagramにて投稿しており、DMや参加申し込みも寄せられています。「SNSを活用していない」と回答した参加者の数を見ても、SNSを使った園のPR活動の必要性を感じます。

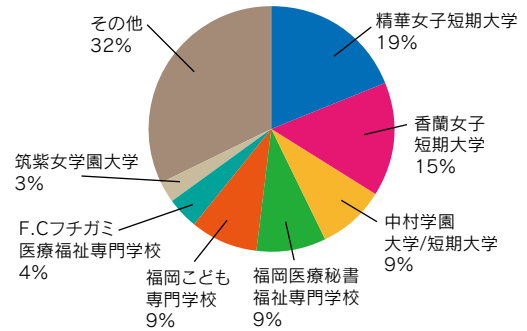
最後に、園に1番聞きたかったことについてです。「人間関係」と「処遇(給与)」、「保育方針」の3項目で9割以上(92.4%)を占めています。各園重点的に説明されている項目かと思いますが、参加者にとっても関心の高い項目であるということが窺えます。

全体を通して、前回・前々回の就職フェアにおけるアンケート結果と同じような結果となりました。参加者の減少傾向は大きな課題と考えています。しかし、知りたい内容や関心のあることなどの本質的な部分に関しては、以前と変わらず、保育方針や園の人間関係などです。ひとりでも多く、福岡市で保育に携わる仲間を増やすためには、引き続き適切な情報を適切な方法で発信していく必要があるのではないのでしょうか。(機関紙編集委員 高山 拓人)

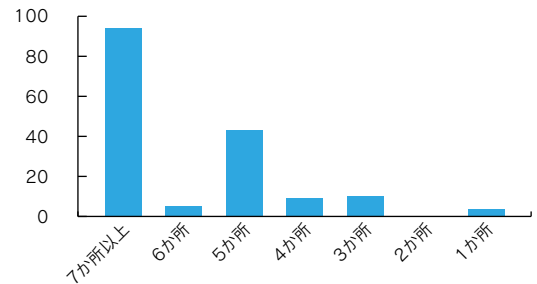
参加者の推移



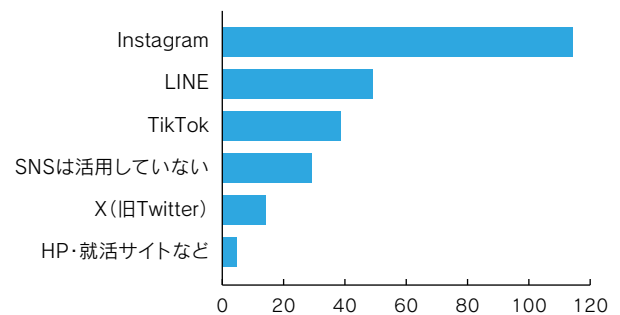
参加者の在籍校



参加者が回ったブース数



参加者が就職における情報収集に活用しているSNS



園に1番聞きたかったこと

人間関係	52名 (32.7%)
処遇(給与)	50名 (31.4%)
保育方針	45名 (28.3%)
周辺環境	6名 (3.8%)
交通手段	3名 (1.9%)
どのような人を求めているのか	1名 (0.6%)
ピアノ	1名 (0.6%)
園独自の献立なのか、食育はどんなことをしているのか	1名 (0.6%)

### 就職フェア公式のInstagramをご存知ですか？

2015年にアカウントを開業してから、青年部が中心となって毎回就職フェアの広報を行ってきました。今回の就職フェアに向けては、4月から更新を開始し、学生のみならず、潜在保育士へも情報が届くように広報活動を行ってまいりました。現在、次回のフェアに向けて絶賛更新中です。「いいね!」やフォロー、各園での紹介・周知のご協力をお願いします!



HOIKUNAKANOHITO



コラム 「余ったら返してください」

サンタリーベ保育園 園長 大澤 清志

私は、以前、小学校の先生をしていました。何故か一年生担任を25回もしました。そのため、幼稚園や保育園とのつながりも少なからずありました。

そこで、どこの園から来たのかを確かめると、園ごとに似たような雰囲気を感じ出していました。ある園の子たちが良くない言動などをすると、「あの園は」などと勝手にひとくくりにして見してしまうところがありました。でも、今、園長になってみると、「園児は一人ひとり違うんだぞ。ひとくくりにするな。」といった気持ちです。

最近、このようにひとくくりにした

ものの見方をする人の言葉をよく聞くことがあります。たとえば、「今の若い者は」です。

若い先生方の中には、クラス担任発表のあった始業式の日、退職する先生がいます。始業式の後、教室で自分のクラスの子どもたちの前に立つと自信を無くしたとのことでした。それにしても、担任発表する前に言っただけで、担任発表した日にやめられると、いかに大変か、その大変さがわかっていない、と「今の若い者は」とつい口に出てしまいました。

また、退職する時、自分の親からお菓子でも持って行くように言われたのか、退職届と一緒にカントリーマアムを2袋、校長先生の所へ持ってきた若い先生。

自分の旅行のおみやげ（個包装でない物）を、自分で配らず、事務室の先生の所に持ってきて、「先生方に配ってあげてください。余ったら返してください。」と言った若い先生。事務室の先生は、なんで私の所に、それに、余ったら返してというのはどういうこと？と疑問に思い、つい「今の若い者は」と事務室にいた先生方に言ったそうです。

また、私が一年生を担任している時、一年生の子どもたちが小学校に入学して間もない頃のことですが、掃除時間、掃除をしていない子がいたのを見て、「どうして掃除しないの？」と聞くと、「だって掃除はルンバがするんだもん。」と答えました。また、トイレが終わった後、水を流さない子がいたので、「ちゃんと水を流さないの？」と言っていると、「自動で流れないの？」と言って返されました。給食を残して、ある子に「残すもつたいないよ。」と言うと、「お金払ってるからいいじゃん。」と返ってきました。職員室で、「今どきの子どもは」で話はずみしました。

また、最近、特に思うことは、自転車に乗っている人のマナーの悪さです。右側通行、信号無視、飛び出し、歩道でのスピードの出し過ぎ、交差点での斜め横断、車道での突然の横切り、一方通行の道での逆走、傘さし運転、スマホを見ながら運転など交通ルール無視の運転に、車を運転している、何度ひやっとさせられたことでしょうか。思わず、「自転車に乗ってる人は」と言いたくなります。

また、女は黒と青、男は赤とピンク。女はズボン、男はスカート。女はスーツにネクタイ、男は振袖・留袖の着物。女は度胸、男は愛嬌。何か違和感を感じる人はいないでしょうか。潜

在的に、男はこうあるべき、女はこうあるべきと植え付けられてきたのではないのでしょうか。

その他にも、昭和生まれの人は、ゆとり世代は、Z世代は、関西人は、東京の人は、九州男児は、母子家庭は、血液型B型の人は、など挙げればきりがありません。

でも、こうしたひとくくりにしたものの見方が、差別や偏見を助長してきたのではないのでしょうか。



# 私の園の取り組み

## 大井保育園 緒方 拓郎

社会福祉法人ヒトトナリ大井保育園では「あなたの幸せ＝私の幸せ」という法人理念のもと、未来を担う子どもたちが豊かな経験を積み重ねることができるよう日々新たな挑戦を続けています。保育の質向上や業務の効率化を目指してICT・DX化の促進や業務委託により、子どもたちと向き合う時間を増やしたりノンコンタクトタイムを確保したりしていることも取り組みの一つです。

また子どもたちの非認知能力の育成においては子ども主体の保育を大切に、一人ひとりの興味や関心、個々のペースに合わせた活動を提供しています。自然の中での探索や創造的な遊びの工夫、体を動かす遊びや色々な玩具を通して、一人ひとりの「できた!」という達成感を大切にしています。中でも大型遊具が沢山ある園庭はテーマパークのようで子どもたちにとって大きな魅力の一つです。

何より子どもの主体性を育てるためには大人の主体性が大切だと考え、定期的なミーティングやアンケートを行い、職員からのフィードバックをもとに提案やアイデアを積極的に取り入れるようにし

ています。職員が様々な意見を出すことによって保育現場が活性化されていく様子が見られることはこの上ない喜びです。

私たちはこれからも子どもたち、保護者、職員一人ひとりの幸せを追求しながら保育を愉しんでいきたいと思ひます。



## 元岡きらきら保育園 内之倉 恵美

元岡きらきら保育園は、福岡市にありながら、自然に囲まれた豊かな環境に恵まれています。ランチルームから見渡す田園風景は自慢の一つでもあります。

そのような環境に囲まれているので、「本物の体験」を大事にし、体験からの学びの基礎作りというところに力を入れています。今回は、その一環として取り組んでいる食育を活かした保育について少しご紹介させていただきます。

園庭に野菜やハーブを植えていますが、3歳以上児クラスが植えた野菜は、子どもたちが季節の野菜を調べ、何を育てたいかを決めて、植え、水やり、収穫、調理へと繋げていきました。

夏野菜の収穫や、水やりを体験した、1歳児クラス。夏の時期、水やりをしたり、野菜が生長するのをみんなで見るのが楽しみの一つでした。収穫した野菜は、給食室に持っていき、「どーぞ!」と渡し、「ありがとう」と受け取ってもらうのが日課になっていました。

カレーライスができる工程を表現遊びした、2歳児クラス。年長児がランチルームで調理する様子を何度も見学に行き、興味津々で見入っていました。給食室を覗くのも大好きで、観察する目はキラキラしています。

保護者にお弁当を作った、5歳児クラス。保育者と一緒に、各家庭の

卵焼き、野菜炒めのアンケートを取り、それをもとに調理活動を実施しました。味付けも、何度も何度も修正を繰り返し、子どもたち同士のサークルタイムで話し合いながら、納得できる味を模索していききました。最後はとても美味しい、素敵なお弁当が完成しました。

当園で大事にしている、【本物の体験】や【食育・調理活動】を通して、子どもたちは、考える力や創造する力、協働する力が育まれています。大人は、目に見える認知能力の方が分かりやすいこともあり、「すごい!」と感じてしまう傾向にありますが、このように、各年齢の目に見えない力を伸ばしながら、子どもたちのより良い育ちのために、私たちができることを考え続けていきたいと思ひます。



## 編集後記

機関紙「保育ふくおか」が電子bookに移行して2年目となりました。皆様のご協力により今回の発刊も無事に終えることができました。

令和5年度から取り組んだ「保育ふくおか」の電子book化により、それまでの印刷コストを15万円以上削減することができました。また、定められた分量にならなくても体裁が整えられる点や、発刊後でもミスを修正できるという点においては、機関紙編集委員の負担軽減にもなりました。さらには今後電子bookでの発刊に慣れていけば、年2回というような限られた機会に縛られず、タイムリーな話題を必要な時に必要な文量提供することも可能となります。

電子book化以前の紙面配布では、手に取った方がすぐに読み進めることができることや、各園での印刷の必要性がないといったよさがありました。我々編集委員としましては、従来の紙面配布の良さを認識したうえで、今後多くの方から愛される保育協会機関紙「保育ふくおか」の編集に尽力したいと思ひます。

機関紙編集委員 有松徹  
(社会福祉法人ヒトトナリ)

～感想やご意見はこちらにお送りください～

【保育協会メールアドレス】 [kyoukai@hoiku.or.jp](mailto:kyoukai@hoiku.or.jp)